

中・高、大学双方にメリット

高大連携が加速する背景

『進学リーダー』編集長 井上 修

私学(私立中高一貫校)と大学の教育連携の例

中学・高校名	連携している大学	連携時期
● 芝	東京慈恵会医科大学	2021年
● 吉祥女子	国際基督教大学、順天堂大学、東京外国語大学、東京学芸大学、東京農工大学	2015~21年
● 国府台女子学院	昭和女子大学、東京女子大学、日本女子大学	2022年以降
● 捜真女学校	神奈川大学、北里大学、昭和女子大学、清泉女子大学、東京女子大学、東洋英和女学院大学、明治学院大学	2004年以降。 青山学院大学にも学校推薦型選抜として25名の枠
● 豊島岡女子学園	工学院大学、電気通信大学、東京慈恵会医科大学、東京電機大学	2019年以降
● 工学院大学附属	麻布大学、多摩美術大学、電気通信大学、東京経済大学、東京薬科大学	2020年以降
● 茗溪学園	国際基督教大学、成蹊大学、筑波大学、立命館アジア太平洋大学	2019年以降

(注) ●男子校、●女子校、●共学校。2023年6月1日調査
(出所) 『進学リーダー』編集部作成



写真：東京農業大学

香里ヌヴェール学院は東京農業大と連携して探究活動を行う

中

高一貫校のメリットは、高校受験の分断がないため、進路をじっくり考えられること。とくに近年は中3から大学の訪問を開始し、学びたい学問領域を調べ始める流れが強まっている。その際役立つのが高大連携だ。大学付属校は、大学と中高が同一キャンパスか近隣なら、高大接続・連携が進行しやすい。従来はこうした機能は進学校にはなかったが、近年は別法人の大学との教育連携が盛んになった。この連携の目的は、「大学」に触れられること。具体的な内容は3点だ。

①大学の出前授業：大学による中高での授業や大学ガイダンスなど。大学生の派遣や大学のインターンシップを兼ねる場合もある。

②大学訪問：中高生たちによる大学訪問。オープンキャンパスでの連携校用

講座の設置や、特別訪問など。

③中高生の探究と論文作成のサポート：大学での実験・実習・授業への参加など。表の豊島岡女子学園のように、近年は理工系大学との連携が増えている。中高の施設では難しい実験・実習に、大学で参加が可能だ。これを中高の「探究」に役立てたり、中高生の研究(論文作成)を大学に手伝ってもらい、大学入試での総合型選抜につなげたりすることも今後増加していく。

他大学の総合型選抜などで、探究・探究の成果を活用することも可能だ。大阪・香里ヌヴェール学院が東京農業大学北海道オホーツクキャンパスで行う探究プログラムはその好例といえる(写真)。2024年は首都圏の複数の私立中高一貫校が参加予定だ。この③は高大連携の重要な柱となる。

誤解なきよう記すが、高大連携の結果、学びたい分野が見つかり、総合型選抜に生かすのであり、大学入試のために研究・探究を行うのではない。

事前に大学に触れる利点

ちなみに高大連携では推薦「枠」は必ずしもない(とくに表にある国立大学にはない)。連携校の中高生が「大学の学び」に触れ、魅力を感じ、総合型・一般選抜で連携する大学に入学するのだ。ただし総合型選抜なら、その大学に事前に触れているので、面接や小論文などで役立つだろう。

表にあるような私立の教養系大学、女子大学では、推薦枠があることも。従来の指定校推薦(現学校推薦型選抜)のように「評定平均値」だけで合格し入学後「思っていた学びではない」という状態にはなりづらい。

高大連携は、近年増加している。22年6月調査時点では首都圏で40校だったが、今年6月には75校に増加した。高大連携の進展で、中高一貫校生からの大学への視野は広がり、結果、大学評価は変化・多様化する。とりわけこれまであまり知られていなかった理工系大学の評価が上昇するだろう。

いのうえ・おさむ 1967年生まれ。日能研の中学受験雑誌「進学リーダー」編集長。長年、中学受験や大学を含めた教育現場の取材、情報分析に携わる。執筆・講演会も多数。